

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100841		
法人名	企業組合つどい		
事業所名	企業組合グループホームつどい		
所在地	沼津市ひ東椎路1502-2		
自己評価作成日	令和3年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和3年 12月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年 10月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スーパーや薬局、病院等が近くにある利便性の高さと、閑静な環境が両立しています。600坪の広い敷地の中で、伸び伸びと穏やかな生活ができる環境にあります。食材やお花、植木などの四季折々の変化を楽しめる努力も怠りません。医療看護連携も十分に充実しており、看取り介護の経験も豊富です。最後まで、心穏やかに過ごしていただける施設でありたいと思っております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺には、大型商業施設や飲食店、医療機関がある。事業所は開所20年目を迎えようとしており、代表者を中心に、「共に愛しあい、共に生かしあい、許しあう支援」を理念に掲げ、安心して利用してもらえる事業所を目指して取り組んできた。多くの看取りケアの実績もあり、医療機関と協力体制が構築されている点も、事業所の強みと言える。室内は、ホワイトページを基調とした、モダンな平屋造りとなっている。共有スペースには沢山の綺麗な花や、季節に合わせた装飾がされている。ケアが作業にならぬよう、代表者は日常的に指導を行っている。例えば、食事に関しては、1回毎の食事が、利用者にとっては大切な支援であると考えている。食事で最も配慮しているのはバランスであり、色彩・栄養・食器・適量を考え、提供されている。対応ひとつにも意味を持ちながら、関わる事を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に職員会議を通し、理念を話し合い共有、実践しています	理念である「共に愛しあい、共に生かしあい、許しあう支援」を中心にケアを実施している。会議や実践場面で、代表者は方針を示し、職員と共有を図っている。今年度は、新たな職員も入り、違う発想や意見を受ける事で、自職場のケアを振り返る機会となった。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に飲食店や商業施設に恵まれ、散歩を兼ね、日常的に利用しています	感染症対策により、地域行事や会議が全て中止となった。日常的に利用していた近隣施設外出も自粛せざるを得ない一年となった。従来は、地域フェスタの開催協力を行っていたが、交流する場が持てない状況にある。事業所は、今後も参加協力したい考えである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症について、日々学び、施設の内容を書面、メールなどにより、発信しています			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員や行政に、施設の内容をご説明するとともに、理解して、共に支えあえる関係の構築に努めています	感染対策の為、書面を通じての開催となっている。対面形式との違いもあり、貴重な意見交換の場が持てない状況である。書面では、事業活動や入居状況、事故報告、研修報告が行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	皆に親しまれるグループホームを目指し風通しを良くする努力をしています 各方面と良好な関係が出来ています	運営推進会議やグループホーム連絡協議会の開催中止もあり、直接意見交換できる機会が少なくなった。事業所は、これまでの関係性を継続できるよう努めていきたいと考えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の尊厳を守り、余力のある人員や介護力でカバーしていきたいと考えております	前回評価を受け、研修・会議録の整備を行った。委員会は、月1回の会議の中で行われている。現在、身体拘束に関する事例はない。職員は、拘束しないケアが日常化している。その為、意図的に議題を作り、問題意識を持てるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	繰り返し、話し合い、学ぶことにより、職員の意識を高めるように努めています 会議を有効に活用し、実践に繋げています			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	共に学び、常日頃話す機会を持ち、理解に努めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族様に安心して頂けるように、誠意をもってわかり易く説明する努力をしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が見えた時や、利用者にも積極的に何か気になることはないか、職員がお声がけし、会議など解決策をよく話し合い、実践していきます	感染対策の為、面会方法を制限しつつも機会を失わないよう努力した。通常は、面会時間を有効に活用し家族と情報共有を行っていたが、一部短時間とせざるを得ない状況であった。ホーム便りを作成し、日頃の活動を紹介する等、状況に応じた工夫が行われていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一日3回の申し送りや、担当者会議など、活発な意見交換があります 押しつけのない関係に努めています	職員会議の出席者は、必ず全員発言する事がルールとなっており、積極的な意見交換がされている。また会食しながら行う事が、緊張感を和らげる効果にもなっている。10年以上働いている職員が半数以上を占めている事も、風通りの良い職場風土の表れである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アットホームな職場の特性を生かし、即断即決公正公平な風通しの良い職場にしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の特性を伸ばし、合わせた教育を行い、研修の紹介を行い、学んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業の連絡会や協議会を通して、横の繋がりを持ち、情報交換に努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取りとともに、ご本人の気持ちを重視し、早期に居心地良く安心できる場所づくりを心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に傾聴し、誠意をもってご説明し、施設の方向性もお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族にあったケアの方法を考え、優先順位を決め、今出来る事からするように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	皆様、職員ともに家族としてとらえ、生活を共にしているという関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たちに出来ない唯一の事は家族との関わりと考えています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで関わった方達が来設し易い施設を目指して、誰からも居心地の良い環境作りを心掛けています。	友人等が入所後に面会に来ることはあるが、継続的な交流には至らない。知人・友人だけに限らず、家族との関係継続も難しさを感じている。個々の状況に合わせて、心情を理解しながら支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	丸テーブルで皆の顔をみて話ができる環境を作り出しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から近況報告を頂いたり、頂きものがあつたり、お返しをしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話内容、声の調子、雰囲気、その日の表情をよく観察して、多くをくみ取るよう努めています。	生活歴や暮らしの好み、日常の会話等を通じて、意向の確認を行っている。言葉では表情する事が難しい利用者は、声の調子や表情を観察する事で、思いを汲み取っている。情報はアセスメントシートにまとめ、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や書面、ご本人との会話内容や日常生活を観察し、把握していきます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	規則正しい生活の中で、ご本人に無理のないように個々の特性を活かした過ごし方に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の担当者、職員全員の意見、夜勤者等、担当者会議で話し合い、プランに反映しています。	毎月の担当者会議で、支援内容の確認や方法の見直しを行っている。利用者の求める要求に対し、ケアが過剰となり自立を奪っていないか相互に点検している。前回評価を受け記録の整備はされたが、ケア内容に具体的方法が示されておらず、アセスメントと課題の繋がりが確認出来ないものもあった。	ケアの質を向上する為にも、介護計画書は、本人だけでなく関係者すべてが共有するものです。会議で話し合った内容や、新たな情報を具体的に明示し、誰が見ても分かりやすい内容となる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有(引継ぎノート等)は毎日行いプランの改善は月1度の担当者会議を利用し、行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さな施設の特性を活かし、臨機応変にきめ細やかなサービスに常に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花見や映画鑑賞、演奏者を招いての音楽会など 地域や人脈を利用したレクリエーション活動をしています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族及び本人の意見を尊重しながら、ご本人のかかりつけ医と施設の専属医との連携に努めています。	入所時に主治医の選択を行い、かかりつけ医に変更するケースが多い。月2回の訪問診療の他、急変時には24時間オンコール体制が整っている。専門医の受診が必要な場合は、職員が付き添い対応している。歯科医師との連携も利用者の要望があり、開始される予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診記録、訪問看護記録はわかり易く記入し、毎週また適宜にくる訪問看護ステーションと共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、医療ソーシャルワーカーとも連携をもち、入院中の利用者への関わり、退院時の受け入れ態勢など、密に話し合っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの経験は豊富にあり、医療関係も十分稼働し、適切な介護にあたることができます	事業所は、開設当初から、多数の看取りケアを実践している。日頃から、密に医師と連携を持つことが出来ている為、希望に合わせたケアが可能となっている。代表者は、自身の経験を率直に職員にも伝え、看取りは学びの場であると指導している。夜間も代表者が常駐している為、精神的にも負担が軽減される環境となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関係各機関との迅速な連携がとれているとともに定期的に勉強会を行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の方に協力頂ける関係作りや、訓練など自分達で守る体制作りを心掛けています。	建物の耐震性を活かし、地域住民の避難場所として開放する考えを持っている。今年度は、火災報知機などの使用方法を訓練に取り入れ、非常時に対応できる実践内容にしていく予定である。備蓄として、防災グッズや食料が準備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の受け取り方、気持ちを十分に考えて 気持ちよく過ごして頂けるようにしています	代表者が中心となり、プライバシーに関して指導 を行っている。ケアの統一という観点からも、介助 方法が、自己流になり作業的になっていないかを 指導している。対応ひとつにも意味を持ちなが ら、支援するよう意識づけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	1日の流れは決まっていますが、 自由に過ごす時間は、それぞれの好みで 過ごせるよう支援していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	安全な暮らしの中で、安心して過ごして頂けるよう、 そして、ご本人の生きがいに繋がるような楽しみ を見つけてもらい、暮らして頂くようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	個性を大切に、配色、素材に細かく配慮し おしゃれな服装に気を遣っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	基本、食事作りは職員が行っています。 皮むき等、危険でない事は役割分担の楽しみを 持ち手伝って頂いています。	1回毎の食事が利用者にとっては大切な食事で あり、生きるための支援であると考えている。食 事で最も配慮しているのはバランスであり、色彩・ 栄養・食器・適量を考え提供されている。本人の 嗜好に合わせ、パン食の日は粥食を提供する 等、個別対応を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	水分量や食事摂取量や内容を記録し、 食事に問題がある方は食事形態や内容を工夫 して 医師に相談したり、 経腸栄養剤等で対応もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、職員同席で歯磨きの実施、磨き残しの ないように清潔確認。介助、うがいの励行 口臭のないように確認、実施しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ内での排泄に心掛け、各人に合わせた介助が来ています パッド類は常に適した物を使用できるように、話し合いを行っています	トイレでの排泄を基本とし、本人のタイミングに合わせて支援を行っている。また、常時見守りが必要な利用者に対しては、羞恥心に配慮した見守り方法を検討している。作業的な関わりにならぬよう、日頃から職員間で注意し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックノートにより、管理出来ています。申し送りは必ず職員に周知するように、行っています。 自然の排便を心掛けています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、午後入浴を行う。 全身観察はゆったりとした時間の流れる中、しっかりとできています。 「気持ち良い、幸せ」との言葉が嬉しい介助です	週2回、午後入浴を基本としている。入浴に対して抵抗のある利用者にも、言葉かけを工夫しながら対応している。また高齢の利用者に対しては、天候や体調の良いタイミングに合わせて、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良眠できるよう年齢やお一人お一人の状態に応じた 1日の過ごし方、細やかな援助に努めています。 清潔な寝具を常に心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専属の薬局との連携、相談ができており、作用、副作用をまとめた個人の薬の説明ファイルに職員がつねに目を通して、体調の確認をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の興味、好みに対して敏感に対応できるように 観察、提案を行い、生きがい、楽しみのあるレクリエーションを提供できるように努力しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は屋外でお茶を飲んだり、ベンチで日光浴をしたり、コンビニや近所のパン屋さんへ出向く、好きな映画を見に行くなど、個別の援助が来ています。	通常であれば、コンビニや近所の商業施設等に出向き外出機会も多かったが、感染対策のため少なくなっている。自粛期間でも、施設周辺の散歩や外気浴は継続し、屋外に出る機会を作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身近なコンビニでの利用は日常的に行われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頂くことが多い。 皆で話す話題作りにもなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	きれいなお花が沢山あり、水槽に金魚やメダカが泳いでおり、いつも皆で癒されています。 室温、湿度、空調も温度計で適切に管理されており 快適な空間となっております	季節の花・装飾品・金魚など、華やかさが感じられる。共有スペースは、自然光が差し込み明るい。中央に円卓があり、コミュニケーションの図りやすい工夫がされている。トイレは2カ所、浴室1カ所あり、清掃が行き届いている。事業所の細部にも気配りが感じられる作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室では個室であり、ホールでは皆と楽しくすごせるように、定期的に席替えや談笑を楽しんでいます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものは、自宅より持参して頂き、清潔な使い易い居室作りを心掛けています。	居室で使用する家具は、自由に持ち込む事が可能である。仏壇など持ってくる方もいるが、利用者の多くは事業所で用意した家具を使っている。また、季節ごとに荷物の整理を行っている事もあり、室内の物品は多くない。換気や掃除が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで車椅子でどこへでも行ける 十分な広さがあり、手すりを利用した歩行も可能です		